

福祉心理学科

科目名	心理学概論 A	開講時期	1年 前期
担当教員	徳山 美知代	単位数	2
テーマ	心の仕組みと働きについて学習する。		
授業の概要と目的	心理学は心に関する学問である。私たちは、日常生活の経験を通して、自分自身や周囲の人の心理状態や行動に関する知識を蓄積している。本授業では、心理学とは何か、他者や環境を認識するしくみ、記憶するしくみなど、心のしくみと働きについて学習し、知識を体系化する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心理学とは何か 3. 感覚と知覚 4. 感覚と知覚 5. 記憶 6. 記憶 7. 学習 8. 学習 9. 思考 10. 思考・言語 11. 脳と心 12. 脳損傷と心の働き 13. 社会の中の人：社会的認知 14. 社会の中の人：社会的影響 15. 全体のまとめ 		
テキスト	長谷川寿一他(著) 2008 はじめて出会う心理学 有斐閣アルマ		
参考文献	無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 2004 心理学 有斐閣 その他、適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	試験(70%)、小レポート(30%)によって総合的に評価する。		
質問・相談の受付方法	授業時間内、終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	特になし。心理学概論 A と心理学概論 B は異なるテーマを扱うので、心理学概論 B を履修しない学生でも履修できる。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	心理学概論 B	開講時期	1年 後期
担当教員	徳山 美知代	単位数	2
テーマ	心のダイナミズム、心の適応といった視点から心理学を学ぶ。		
授業の概要と目的	心理学について、生涯を通して発達する心、社会の中の心、個人差といった側面から理解する。そして、環境に適応していく上で心がどのように役立っているのか、心理的な援助はどのようなものなのか学習する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 心の進化 3. 子ども時代の心の発達 4. 青年期・成人期の心の発達 5. 動機づけ 6. 情動 7. 性格 8. 知能 9. 人間と社会 10. 自己とは何か 11. 人間関係 12. 集団 13. ストレスとメンタルヘルス 14. カウンセリングと心理療法 15. カウンセリングと心理療法、および全体のまとめ 		
テキスト	長谷川寿一他(著) 2008 はじめて出会う心理学 有斐閣アルマ		
参考文献	無藤隆・森敏昭・遠藤由美・玉瀬耕治 2004 心理学 有斐閣 その他、適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	試験(70%)、小レポート(30%)によって総合的に評価する。		
質問・相談の受付方法	授業時間内、終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	特になし。心理学概論 A と心理学概論 B は異なるテーマを扱うので、心理学概論 A を履修しない学生でも履修できる。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	心理統計学	開講時期	1年 通年
担当教員	石原 治・佐々木 心彩・吉野 大輔	単位数	4
テーマ	心理学の研究(データの整理)に必要な基礎統計を学ぶ。		
授業の概要と目的	<p>(概要)統計学に関する知識や計算方法を理解し、練習問題を授業時間内に解き、パーソナルコンピュータを使って体験的に学習するのが概要である。</p> <p>(目的)心理学の研究において、データ解析は必要不可欠である。授業では、データを解析し、吟味するための統計学に関する知識と技術を習得するのが目的である。</p>		
授業計画	<p>前期は、心理学における統計学の意味や必要性について学ぶ。具体的なデータを用いながら、度数分布、正規分布(1~5回)、中心傾向(6~7回)、散布度(8~11回)、相関や回帰(12~15回)などの記述統計について、基本的な概念を説明する。形式は講義であるが、方法や数式に関して理解を確実に習得するために、授業時間内で実際に練習問題を解く実習も兼ねている。計算には、パソコンの表計算ソフトであるエクセルを使用する。記述統計を中心とする基礎的な統計の知識習得に加えて、実際のエクセルの操作方法を学ぶ。また、図表の作成方法などの心理学に即した実技も学習する。</p> <p>後期は、推測統計学の基本的な考え方や各種の検定についての知識や技術を習得する。具体的には、t検定(後期1~10回)、χ^2検定(11回)、3つ以上の平均値の差の検定である分散分析(12~15回)などの統計に関する知識を習得する。エクセルやインターネット上に公開されているJavaScript-STARやANOVA4を利用し、解析技術も確実に習得する。</p> <p>これらの学習を通して、心理統計学の理解のみならず、心理学基礎実験や卒業研究にも役立つようにする。</p>		
テキスト	よくわかる心理統計 山田剛史・村井潤一郎(著) ミネルヴァ書房		
参考文献	授業中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	授業に対する取り組み方や平常点(40%)、授業の総括(60%)による総合評価を行う。		
質問・相談の受付方法	授業終了後、教室で受け付ける。メールによる質問も受け付ける。		
履修要件	特になし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	授業時間内に多くの練習問題を解くことによって、統計学の理解を深めるとともに、パソコンの技術を高めていく。したがって、毎回出席しないと授業についていけなくなることから、遅刻厳禁、出席重視である。2年次の「心理学基礎実験」や「認知心理学」を履修するために、必要不可欠である。		

科目名	心理学基礎実験	開講時期	2年 通年
担当教員	石原 治・佐々木 心彩・吉野 大輔	単位数	4
テーマ	実験・調査を自ら体験して知る心理学		
授業の概要と目的	<p>(概要)心理学のさまざまな領域の実験や調査を行い、測定の実際やデータの整理方法、記述の仕方を学ぶための実習である。</p> <p>(目的)実験や調査を行うという心理学の基本的研究法の適用例を広くに体験することを通して、心理学の研究の進め方を具体的に理解する。</p>		
授業計画	<p>心理学研究で基本とされる基礎的な実験、調査およびデータ整理、レポート作成について実習する。</p> <p>小グループに分かれ、グループごとに下記に挙げるような心理学のさまざまな領域の実験や調査を実際に行う。具体的には、まず、精神物理学的測定法、観察法、評定法などの測定方法を用いてデータを収集する。そして、得られたデータを統計的な分析法(平均値、標準偏差、平均値の差の検定、相関分析、度数の検定など)を用いて解析を行う。図表なども作成し、結果を記述し、その結果に対する考察も行う。これら一連の過程をレポートとしてまとめる。レポートは、毎回担当教員によって添削され、レポート作成能力も修得する。</p> <p>予定している実験や調査のテーマは、レポートの書き方(1回)、ミューラー・リヤーの錯視実験(前期2~4回)、重さの弁別閾(5~6回)、触2点閾の測定(7~8回)、鏡映描写(9~10回)、系列位置学習(11~12回)、認知的葛藤(13~14回)、KJ法(15回)、KJ法(後期1回)、一対比較による好悪の尺度化(2~4回)、判断に及ぼす他者からの情報的影響(5~6回)、SD法によるイメージの測定(7~10)、社会的態度尺度の構成(11~15回)などである。</p>		
テキスト	心理学基礎実験と質問紙法 石原 治(編) 培風館		
参考文献	授業中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	授業に対する取り組み方や平常点(40%)、レポート(60%)による総合評価を行う。		
質問・相談の受付方法	授業終了後、教室で受け付ける。メールによる質問も受け付ける。		
履修要件	心理統計学を履修した者に限る。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	小グループによる実験・実習授業であるので遅刻・欠席は厳禁である。 データ整理のために、メディア(USBメモリー)を各自で用意すること。 「認知心理学」の理解を深めるために必要な授業である。		

科目名	心理学研究法	開講時期	2年 後期
担当教員	石原 治	単位数	2
テーマ	心理学の研究方法を学習する。		
授業の概要と目的	<p>(概要)心理学で採用されているさまざまな研究方法の分類, それらの長所や短所について学ぶ。</p> <p>(目的)心理学は科学的な方法を採用することで, 心を扱う他の学問領域と区別される。この授業では, 心理学で採用されてきた研究方法の理解を目的とする。</p>		
授業計画	<p>講義内容は下記の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の研究とは何か(心理学の歴史, 心理学の研究の特徴とその過程)(1~6回) 2. 質的調査(観察, 面接, フィールドワークによるデータ収集)(7~9回) 3. 実験の論理と方法(心理学における実験)(10~12回) 4. 量的調査(質問紙法)(13~15回) <p>そのほか, 受講生の希望に応じて, 「文献検索の方法」などの研究の手助けとなる実習などを行う場合もある。</p>		
テキスト	<p>テキストはなし。</p> <p>平易で理解しやすいテキストを適宜コピーし, 資料として配布する。</p>		
参考文献	授業中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	授業に対する取り組み方や平常点(40%), 授業の総括(60%)による総合評価を行う。		
質問・相談の受付方法	授業終了後, 教室で受け付ける。メールによる質問も受け付ける。		
履修要件	心理学概論 A および B を履修したものに限る。		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生 【不可】</p> <p>聴講生 【不可】</p>		
その他	論文のコピーや配付資料を整理し, 保存するためのクレーンファイルを用意すること。 心理学基礎実験を履修した者が望ましい。		

科目名	乳幼児心理学	開講時期	2年 前期
担当教員	藤本 昌樹	単位数	2
テーマ	乳幼児期からの発達を理解する。		
授業の概要と目的	人間の発達において、乳幼児期は重要であるが、発達はすでに出産以前に始まっている。本講義では、出産前の胎児期発達について触れることから始める。そして、乳児期から幼児期（0－6歳）に至る発達プロセスを検討していき、運動の発達、自己の発達、人格の発達、認知的発達、社会性発達などの側面について、発達心理学の理論、主要なテーマを取り上げ、子どもの一般的な発達過程を理解するとともに、発達心理学における重要な研究成果を概説していく。その上で、現代の子どもを取り巻く環境についても考察し、保育園や幼稚園などで認められる子どもの問題行動の理解と、子どもと保護者への支援のあり方について検討していく		
授業計画	1. 乳幼児心理学の対象 2. 発達の規定因 3. 発達の理論 4. 知能・性格・感情の基本形成（Ⅰ） 5. 知能・性格・感情の基本形成（Ⅱ） 6. 知能・性格・感情の基本形成（Ⅲ） 7. 様々な事例から発達について考える 8. 胎児期・新生児期の発達 9. 乳児期・幼児期の発達 10. 乳幼児期後の発達 11. 発達をつまづきへの援助 12. 発達障害の理解と援助（Ⅰ） 13. 発達障害の理解と援助（Ⅱ） 14. 子どもの問題行動 15. 総括（まとめ）		
テキスト	編著 小林芳郎 「乳幼児のための心理学」 保育出版社		
参考文献			
成績評価の基準・方法	授業中の提出物や小テストを中心に行う。 小テスト 80% その他提出物など 20%		
質問・相談の受付方法	授業中、授業終了後など随時受け付ける。メールでも可。 Fujimoto@suw.ac.jp		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<p>本講義は、保育士を目指す学生の為の開講科目であるので、<u>真剣に受講出来ない者の履修は望ましくない。</u></p> <p>*出席の確認にメールを使用する。出席の確認の方法については、再度、オリエンテーション時に説明する。概要は下記の通り メールのタイトルに「乳幼児心理学 学籍番号 氏名」 本文欄に「月 日、当日のキーワード」 これを fujimoto.suw@gmail.com 宛に送付。</p>		

科目名	生涯発達心理学 A	開講時期	1年 前期
担当教員	徳山 美知代	単位数	2
テーマ	現代の生涯発達心理学の理論と知識、および発達上の援助を理解する。		
授業の概要と目的	現代は人とのつながりが以前と比べて希薄になったと言われている。情動は自己と他者をつなぐ窓でもあり、情動がはたらくことによって関係が生まれ、自己が社会のなかで位置づいたり、適応が決められたりする。本授業では人の発達を社会・情動の視点から捉え、現代社会における課題を把握した上で援助について考える。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会・情動発達をとりあげることの臨床的意味 2. 情動と社会性の発達についての基本理解 3. アタッチメントとトラウマの内在化と発達病理 4. 情動発達の個人差・文化差と現代における発達の危機 5. 胎児期・新生児期、乳幼児期の情動と関係の発達と障害 6. 園や学級での集団参入における自己と関係の障害 7. 幼児・児童にみられる情動の危機と病理 8. 思春期からのちのアイデンティティの発達と関係の障害 9. 社会・情動発達のアセスメント 10. 自閉症・高機能広汎性発達障害の場合の援助 11. 注意欠陥・多動性障害の場合の援助 12. 教室の中における子どもの情動の問題への援助 13. 親子関係への援助 14. 子ども虐待が発達に与える影響と危機状態への介入 15. 現代の青年の課題と援助 		
テキスト	なし		
参考文献	柏木恵子・藤永保 2002 社会・情動発達とその支援 ミネルヴァ書房 その他、適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	期末レポート(70%)、小レポート(30%)によって総合的に評価する。		
質問・相談の受付方法	授業時間内、終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	生涯発達心理学 B	開講時期	1年後期
担当教員	櫛木てる子	単位数	2
テーマ	生涯発達の視点から発達の理論や心理的特徴について学ぶ。		
授業の概要と目的	生まれてから大人になり、やがて年老いていくという人生の流れにそって、おもに青年期以降の発達の特徴について学ぶ。		
授業計画	1. 発達とは (1~2回) <ul style="list-style-type: none"> ①発達に対する考え方 ②発達課題 ③発達の理論 2. 子どもの心理 (3~6回) <ul style="list-style-type: none"> ①新生児・乳幼児 ②幼児期 ③児童期 3. 青年の心理 (7~8回)		
テキスト	いちばんはじめに読む心理学の本3 発達心理学 ミネルヴァ書房		
参考文献	適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	定期試験 80、授業態度 20 で評価を行う。		
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	高齢者福祉心理学	開講時期	2年後期
担当教員	樺木てる子	単位数	2
テーマ	エイジングの影響を受ける中高年期の心理的特徴や心理的問題について学ぶ		
授業の概要と目的	<p>エイジングの特徴、中年期および高年期の心理的特徴、心理的問題、心理的援助のあり方についてとりあげる。</p> <p>授業を通して、中高年者に対する関心と理解を深めてもらうことを目的とする。</p>		
授業計画	<p>1. エイジングの特徴 (1~3回)</p> <p>①エイジングとは</p> <p>②高齢社会の実態</p> <p>③老性自覚と高齢期の区分</p> <p>④サクセスフル・エイジング</p> <p>2. 中年期及び高齢期の心理的特徴 (4~7回)</p> <p>①就労、育児、介護における活動と役割</p> <p>②家族関係の発達</p> <p>③認知機能や知能の発達</p> <p>④パーソナリティの発達と適応</p> <p>3. 中高年期の心理的問題と心理的支援 (8~14回)</p> <p>①認知症</p> <p>②介護ストレス</p> <p>③うつ病、自殺</p> <p>④ターミナルケア、障害の受容</p> <p>4. まとめ (15回)</p>		
テキスト	なし。		
参考文献	適宜、授業時間内に紹介する。		
成績評価の基準・方法	授業内のレポート40、発表要旨30、発表30で評価を行う。		
質問・相談の受付方法	授業時間内、あるいは終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	なし。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	認知心理学	開講時期	2年 前期
担当教員	石原 治	単位数	2
テーマ	認知心理学の考え方、基本的な概念、研究成果について学ぶ。		
授業の概要と目的	<p>(概要)認知心理学の手法による、人間の知覚、注意、認知、記憶などに関するモデルや理論、実験的な研究方法を学ぶ。</p> <p>(目的)認知心理学は、理論的なモデルを作ることによって実験的な検討を行う学問である。認知心理学の考え方、捉え方、研究の成果などについて学ぶことが目的である。</p>		
授業計画	<p>講義形式と受講者の小グループによる発表形式を併用する。</p> <p>最初の5～6回目の授業までは、講義を行う。知覚、注意、認知、記憶などを概説する。認知心理学の基礎的、典型的なモデルや理論、仮説を解説する。それらを検証するための代表的な実験方法についても紹介する。</p> <p>講義終了後、受講者はいくつかの小グループに分かれ、グループごとに研究テーマを決め、発表(プレゼン)を行う(7～15回)。発表終了後の活発な質疑応答を期待する。最後に補足説明を適宜行う。この一連の発表をグループごとに順次行っていく。</p>		
テキスト	なし		
参考文献	授業中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	授業に対する取り組み方や平常点(40%)、発表(60%)による総合評価を行う。		
質問・相談の受付方法	授業終了後、教室で受け付ける。メールによる質問も受け付ける。		
履修要件	理解を深めるために、心理学統計法、心理学基礎実験を履修した者が望ましい。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	なし		

科目名	性格心理学	開講時期	2年 前期
担当教員	徳山 美知代	単位数	2
テーマ	性格について理解しよう		
授業の概要と目的	性格は人の行動に関与しており、人間が適応的に生きる意味においても、より善く生きる人間像形成においても性格という視点から考えることは重要な意味を持つ。そこで、本授業では、性格とは何か、性格はどのように作られるのかなど、性格について心理学的な視点から総合的に理解を深める。そのことで自分自身や他者について再考する機会ともする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション、性格の定義と研究史 2. 性格の類型論 3. 性格の特性論 4. 性格理解の方法 5. 性格はかわるか 6. ライフサイクル・ジェンダーと性格 7. 家族関係と性格 8. 社会的な地位や役割と性格 9. 人間関係と性格 10. 自分とは何か 11. 文化と性格 12. やる気のある人の性格 13. 創造的な人、攻撃的な人の性格 14. 性格の正常・異常、かわった性格の人たち 15. 全体のまとめ 		
テキスト	清水弘司 2008 はじめてふれる性格心理学 サイエンス社		
参考文献	梅本堯夫・大山正監修 2009 性格心理学への招待 サイエンス社 その他、授業中に適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	期末レポート(70%)、小レポート(30%)によって総合的に評価する。		
質問・相談の受付方法	授業時間内、終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	臨床心理学 B	開講時期	2年 後期
担当教員	藤本 昌樹	単位数	2
テーマ	臨床心理学を基盤とした技法と様々な活動領域についてしろう		
授業の概要と目的	臨床心理学の活動領域は、医療、教育、福祉、司法、警察などに置かれている対面相談機関に加えて、自殺予防のための「いのちの電話」、いじめや不登校のための「ハロー電話」、児童虐待専用電話、家庭内暴力相談電話など多岐にわたる。さまざまな悩みを抱えている人々への支援相談は年々増加し、その必要性も重要性もますます増大してきている。臨床心理学では、援助方法としての心理療法すなわちサイコセラピーを中心に学び、さまざまな活動領域の実際も学んでいく。		
授業計画	<p>1～3：臨床心理学的面接について</p> <p>4～8：臨床心理学の様々な活動領域について</p> <p>9～13：臨床心理学の知と技法について</p> <p>14：臨床心理学の動向について</p> <p>15：総括</p>		
テキスト	杉原一昭（監修）「はじめて学ぶ人の臨床心理学」（2003年 出版：中央法規）		
参考文献	鎌倉利光・藤本昌樹（編）子どもの成長を支える発達教育相談（2011年 出版：北樹出版）		
成績評価の基準・方法	臨床心理学試験の小テスト70%・レポート30%の割合で評価します。授業内で発表をする場合もあります。それも、レポートとして考慮します。		
質問・相談の受付方法	授業中、授業終了後など随時受け付ける。メールでも可。 Fujimoto@suw.ac.jp		
履修要件	臨床心理学 A の履修歴があるまたは履修中であること		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】上の履修要件を満たしていること 聴講生【可】上の履修要件を満たしていること		
その他	出席の確認にメールを使用する。出席の確認の方法については、再度、オリエンテーション時に説明する。概要は下記の通り メールのタイトルに「臨床心理学 学籍番号 氏名」 本文欄に「月 日、当日のキーワード」 これを fujimoto.suw@gmail.com 宛に送付		

科目名	教育心理学	開講時期	3年 前期
担当教員	徳山 美知代	単位数	2
テーマ	教育のフィールドに応用できる教育心理学の基本的な考え方を習得する。		
授業の概要と目的	人の学びを心理学の視点から理解し、支援するための教育心理学の理論と知識について、概論に加え、「学び」「適応」「子どもを支える教師」といった観点から理解する。そして、自らの学びについて理解すると同時に、適切な教育方法によって子どもを援助できるように学習する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の考え方 2. 学習の基礎理論 3. 学びの場とその移行 4. 学びの意欲と動機付け 5. 学びのしくみ：学習スキル・記憶・問題解決 6. 学びの支援①：学びの開発と体系化 7. 学びの支援②：主体的な学びの授業づくり 8. 学びの支援③：個に応じた学びの援助 9. 適応の理解と支援：自立と社会性の学び①虐待 10. 適応の理解と支援：自立と社会性の学び②学級集団 11. 適応の理解と支援：自立と社会性の学び③キャリア教育 12. 適応の理解と支援：子どもを支える①生徒指導と教育相談 13. 適応の理解と支援：子どもを支える②特別支援教育 14. 適応の理解と支援：学びと適応の評価 15. 教師の成長 		
テキスト	中澤潤 2008 よくわかる教育心理学 ミネルヴァ書房		
参考文献	適宜、紹介する		
成績評価の基準・方法	期末レポート(70%)、小レポート(30%)によって総合的に評価する。		
質問・相談の受付方法	授業時間内、終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	社会心理学A	開講時期	2年前期
担当教員	櫛木てる子	単位数	2
テーマ	社会心理学に関する基本的知識を学ぶ。		
授業の概要と目的	社会心理学は学校や職場、地域などにおける他者とのかかわりあいに関する心理学である。講義を通して、普段の生活における自己や周囲の人の行動について新たな気づきが得られるようにすすめていきたい。		
授業計画	<p>1章. 社会的動物としての人間と社会心理学 (1回)</p> <p>—社会心理学とは何か?</p> <p>2章. 感情 (2~3回)</p> <p>①感情のはたらき</p> <p>②感情の種類</p> <p>③感情と知的能力</p> <p>3章. 人を傷つける心、人を助ける心 (4~6回)</p> <p>①人を傷つける心</p> <p>②人を助ける心</p> <p>③ソーシャルサポートと精神的健康</p> <p>4章. 集団 (7~9回)</p> <p>①集団とは何か</p> <p>②差別やひいきを引き起こす心のメカニズム</p> <p>③集団内の社会的ジレンマ問題</p> <p>5章. 関係性 (10~12回)</p> <p>①対人関係の形成と発達</p> <p>②友人関係、家族関係、恋愛関係</p> <p>6章. 社会的自己 (13~15回)</p> <p>①自己とは何か</p> <p>②自己評価</p> <p>③自己制御</p>		
テキスト	いちばんはじめに読む心理学の本2 社会心理学 ミネルヴァ書房 (基本的に「社会心理学B」では、このテキストの後半部分を扱う予定である)		
参考文献	適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	定期試験 80、授業態度 20 で評価する。		
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	なし。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	社会心理学 B	開講時期	2年 後期
担当教員	佐々木心彩	単位数	2
テーマ	社会心理学の基礎を学ぶ		
授業の概要と目的	私たちの感情や思考・判断、行動などは、ひとりであるときと誰かといるときとでは大きく違うことがあります。本講義では、こうした他者や社会から受ける影響や、また同時に私たちが他者や社会に対して与える影響についての理解を深めていきたいと考えています。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 社会的影響 (1) —社会的影響とは— 3. 社会的影響 (2) —同調と服従— 4. リーダーシップ 5. 態度 (1) —態度とは— 6. 態度 (2) —態度変容と説得— 7. 文化と心 8. 社会的推論 (1) —原因帰属— 9. 社会的推論 (2) —推論の誤りとバイアス— 10. ステレオタイプ 11. 偏見と差別 12. 公正・公平 13. 環境 (1) —環境評価、環境認知、環境推論— 14. 環境 (2) —環境と行動— 15. まとめ 		
テキスト	遠藤由美 (編著) 『社会心理学—社会で生きる人のいとなみを探る—』 ミネルヴァ書房。		
参考文献	適宜授業中に紹介します。		
成績評価の基準・方法	出席状況 (10%)、受講態度やレポート等の平常点 (20%)、定期試験 (70%) をもとに評価します。		
質問・相談の受付方法	授業終了時、教室にて受け付けます。		
履修要件	なし。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	学習心理学	開講時期	2年 前期
担当教員	石原 治	単位数	2
テーマ	学習心理学の捉え方によって行動のメカニズムを理解する。		
授業の概要と目的	<p>(概要)行動のメカニズムを説明するために心理学では、古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習などの代表的な学習理論の考え方を学ぶ。</p> <p>(目的)学習心理学は、臨床心理学、教育心理学、福祉心理学などに深く関わっている。この講義では、行動の科学の基礎である学習心理学を学ぶ。</p>		
授業計画	<p>テキストに沿って、学習理論の代表的な理論を学んでいく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学史における学習心理学(1～3回) 2. 学習心理学とは (4回) 3. 古典的条件づけ (5～7回) 4. オペラント条件づけ (8～11回) 5. 概念学習 (12回) 6. 観察学習 (13回) 7. 問題解決 (14回) 8. 学習心理学の応用 (15回) 		
テキスト	コンパクト新心理学ライブラリ 学習の心理 実森正子・中島定彦 サイエンス社		
参考文献	授業中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	授業に対する取り組み方や平常点(40%), 授業の総括(60%)による総合評価を行う。		
質問・相談の受付方法	授業終了後、教室で受け付ける。メールによる質問も受け付ける。		
履修要件	特になし。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生 【不可】 聴講生 【不可】		
その他	特になし。		

科目名	カウンセリング演習	開講時期	3年 通年
担当教員	徳山 美知代	単位数	4
テーマ	カウンセリングの理論と技法の基礎を学ぶ		
授業の概要と目的	心理臨床・福祉・教育・医療領域における対人援助に必要なとなるカウンセリングの理論と技法を体験的に学び、各フィールドや自身の生活に活かせることを目指す。グループ体験を通して、援助促進者としてのファシリテーションスキルについても学習する。		
授業計画	<p><前期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの理論と基礎(1~4回) 2. カウンセリング演習(5~14回) <ul style="list-style-type: none"> ・ラポール形成 ・言葉と非言語によるコミュニケーション ・カウンセリングスキルのレッスン ・ロールプレイ 3. 前期授業のまとめ(15回) <p><後期></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. グループワークとファシリテーターについての知識と理論(1~2回) 2. カウンセリング演習(3~9回) <ul style="list-style-type: none"> ・グループワーク 3. 心理療法(10~14回) <ul style="list-style-type: none"> PCIT(親子相互交流療法)、アタッチメントに焦点をあてた介入、認知行動療法、芸術療法 4. 後期授業のまとめ(15回) 		
テキスト	なし		
参考文献	長尾博 やさしく学ぶカウンセリング 26のレッスン 金子書房 川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子 これからの心の援助 ナカニシヤ出版 津村俊充・石田裕久 ファシリテーター・トレーニング ナカニシヤ出版 その他、授業の中で適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	レポート(50%)、小レポート(30%)、授業への関与度・貢献度(20%)		
質問・相談の受付方法	授業時間内、終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	グループで活動することが多いので、他者に迷惑のかからぬように責任持って受講してください。遅刻・欠席をしないようにしてください。また、体験学習が中心となるので積極的にかかわってください。		

科目名	カウンセリング演習	開講時期	3年 通年
担当教員	藤本 昌樹	単位数	4
テーマ	カウンセリングの理論と技法の基礎を学ぶ		
授業の概要と目的	心理臨床・福祉・教育・医療領域において、対人援助を行ううえでは、カウンセリング技術の習得は必要不可欠である。従って、それぞれの領域で必要とされるカウンセリングの技術を学んでいく。		
授業計画	<p>心理臨床・福祉・教育・医療領域において必要とされるカウンセリングの技術の基礎からの習得を目指す。本演習では、カウンセリングの基礎理論と技法の知識的習得を目指すとともに、演習独自の特性を活かし、学生自らがカウンセリングを行う等の体験をするなどの体験型の授業を行う。</p> <p>それぞれの担当教員が得意とする領域について授業を行う予定であるので、履修を希望する学生は、各教員の専門領域を見極めたいうで履修することが望ましい。</p> <p>藤本クラス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリング基礎 (1～5回) 2. カウンセリング実習 (6～10回) 3. 心理療法実習Ⅰ：箱庭療法・コラージュ・スクイグルなど (11～20回) 4. 心理療法講義・体験：認知行動療法など (21回～25回) 5. 心理療法実習Ⅱ： <ul style="list-style-type: none"> 臨床動作法・催眠療法・タッピングタッチ・TFT など (21～30回) <p>*上記の内容は、変更される場合もあります。</p>		
テキスト	川瀬正裕 (他) これからの心の援助 ナカニシヤ出版		
参考文献			
成績評価の基準・方法	成績評価は試験の結果を中心に行う。 授業態度と出席 (70%), 提出物 (30%)		
質問・相談の受付方法	講義では、質問を受け付けるので積極的に質問をし、内容の理解に努めてほしい。その他、随時質問は受け付ける。		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】 *左記は、事情などにより、特別に認めることもある		
その他			

科目名	カウンセリング演習	開講時期	3年通年
担当教員	樺木てる子	単位数	4
テーマ	カウンセリングの理論と基礎を学ぶ		
授業の概要と目的	臨床心理や福祉現場などで行われるカウンセリングの基本的態度および、心理療法理論と技法について講義と実習を交えて学ぶ。		
授業計画	<p>前期</p> <p>1. オリエンテーション (1~4回)</p> <p>①心理的問題とは</p> <p>②カウンセリングと心理療法</p> <p>③臨床心理学的支援の流れ</p> <p>2. マイクロカウンセリングの技法 (5~14回)</p> <p>①かかわり行動、②質問、③はげまし、いいかえ、要約</p> <p>④感情の反映、⑤意味の反映、⑥技法の統合</p> <p>3. 前期授業の振り返り (15回)</p> <p>後期</p> <p>1. 心理的問題と事例 (1~7回)</p> <p>2. 心理療法各論 (8~14回)</p> <p>①来談者中心療法</p> <p>②精神分析的療法、</p> <p>③認知行動療法</p> <p>④芸術療法</p> <p>⑤家族療法・ブリーフセラピー</p> <p>⑥集団療法</p> <p>3. 後期授業の振り返り (15回)</p>		
テキスト	なし。		
参考文献	適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	指示したレポート50、授業態度50で評価をする。		
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	なし。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	演習ですから、前回の授業体験をもとに授業がすすんでいきます。 止むを得ない事情以外は遅刻と欠席をしないように。		

科目名	心理検査演習A	開講時期	2年前期
担当教員	櫛木てる子	単位数	2
テーマ	心理検査に関する基本的知識について実習を通して学ぶ		
授業の概要と目的	心理検査は臨床心理の現場や心理学研究においてよく用いられる道具である。この授業では講義と実習を交えつつ、総論的に心理検査について学ぶ。		
授業計画	<p>1. 心理検査とは (1～6回)</p> <p>第1回 心理検査と心理アセスメント</p> <p>第2回 心理検査の歴史と種類</p> <p>第3回 知能検査</p> <p>第4回 発達検査、神経心理学的検査</p> <p>第5回 パーソナリティ検査－質問紙法・作業検査法</p> <p>第6回 パーソナリティ検査－投影法</p> <p>2. 心理検査の受検と実施実習 (7～10回)</p> <p>第7回 YG性格検査の受検</p> <p>第8回 YG性格検査の結果の算出</p> <p>第9回 心理検査の実施体験①</p> <p>第10回 心理検査の実施体験②－検査実施の留意点</p> <p>3. 心理検査の作成実習 (11～15回)</p> <p>第11回 心理検査の作成</p> <p>第12回 心理検査の信頼性と妥当性</p> <p>第13回 心理検査の作成実習① 項目の作成と質問紙の作成</p> <p>第14回 心理検査の作成実習② データ収集</p> <p>第15回 心理検査の作成実習③ データ入力と分析</p>		
テキスト	なし		
参考文献	適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	実習レポート 50、定期試験 50 で評価を行う。		
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	心理統計学を履修していること。(心理検査作成実習で必要となります)		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【要件を満たしていれば可】 聴講生【要件を満たしていれば可】		
その他	実習が入ると、複数回にわたってグループ作業をすることになります。ですから遅刻や欠席が多いと授業についていくことができなくなります。止むを得ない事情以外は遅刻と欠席をしないように。		

科目名	心理検査演習 B	開講時期	2年 後期
担当教員	徳山 美知代	単位数	2
テーマ	知能検査、および投影法について実践的に学ぶ。		
授業の概要と目的	<p>子どもの知能検査として多く用いられている WISC-III(WISC-IV)について実践的に学ぶ。そのためにグループ単位で、検査の実施方法、被検査者体験、検査結果の整理と解釈について体験学習する。</p> <p>また、後半では投影法を取り上げ、投影法の理論と知識、描画法とロールシャッハテストについて学ぶ。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本講義の概要 2. ウェクスラー法について 3. 知能検査：WISC-III(WISC-IV)の実施方法の基礎 4～10. 検査の実施に関する体験学習 11. WISC-III(WISC-IV)の結果の整理と検査レポートの書き方 12. 投影法とは 13. 描画法(バウム・テスト/星と波テスト) 14. ロールシャッハテスト 15. 全体のまとめ 		
テキスト	なし		
参考文献	適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	演習時の小レポート(50%)、期末時レポート(50%)		
質問・相談の受付方法	授業時間内、終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	心理検査演習 A を履修済みであること。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	授業はグループでの体験学習が中心となります。グループに迷惑がかからぬよう、責任を持って受講してください。		

科目名	ヒューマンエラーの心理学	開講時期	3年 後期
担当教員	口ノ町 康夫	単位数	2
テーマ	ヒューマンエラーはなぜ起こり、いかにすれば防止できるか。		
授業の概要と目的	ヒューマンエラーによる悲惨な事故が毎日のように報道されている。この講義では、理論の習得と共に、具体的な事故事例や身近な体験例の解析を学生と共に行いながら授業を進めることにより、ヒューマンエラーの心理的な特性の理解を促進し、実生活におけるヒューマンエラーの軽減に役立つ知見を身につけることを目的とする。		
授業計画	<p>各回の講義におけるテーマと中心的な内容を示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事故におけるヒューマンエラーの位置づけ:ほとんどの事故の背景にはヒューマンエラーが潜んでいる。 2. ヒヤリハット事故に関するハインリッヒの法則:ヒヤリハット事故は大きな事故の前触れ。 3. a)ヒューマンエラーの4つの要因(4M): Man, Machine, Media, Management b)ヒューマンエラーのモデル: シェルモデル、スノーボールモデル、スイスチーズモデル。4Mの関係を独自の視点でモデル化している。 4. ヒューマンエラーの分類と対策 <ol style="list-style-type: none"> a) するべき行為をしないオMISSIONエラー。するべきでない行為をするコミッションエラー。 b) ノーマンによる分類(スリップとミスティク):なれた行動で出現するのがスリップ、知識がないときにするのがミスティク。ノーマンのスキーマによるヒューマンエラーのモデル。ヒューマンエラーを少なくする製品設計の7原則。 5. ヒューマンエラーを減らすフルプルーフ(愚か者でもミスしない仕組み)と危険を防止するフェイルセーフ(ミスしても、危険を回避できる仕組み)。 6. ヒューマンエラーに関わる感覚特性: 錯視と錯覚、形の群化、順応と慣れなど。 7-8. ヒューマンエラーに関わる認知特性: 学習、記憶、注意、社会的要因など。 9. ヒューマンエラーに関わる動作・生理特性: 操作ボタンの配置と操作の方向性など。サーカディアンリズム(覚醒水準の日内変動: 早朝の注意レベルが低い) 10-12. 自動車事故、鉄道事故、医療事故など事故事例の分析。 13-15. 組織事故の解析と対策 <p>リーゾンのスイスチーズモデルを中心にして、多重防護を破る即発的エラー要因と潜在的要因を事故事例と共に分析、対策としてのエラーマネジメント技法。</p> 		
テキスト	資料を配布する。		
参考文献	ノーマン: 誰のためのデザイン、新曜社 リーゾン: 組織事故、日科技連		
成績評価の基準・方法	試験(期末試験)50%、10回程度のレポートの提出と講義時間中の発表50%。		
質問・相談	随時、教室、研究室で質問、相談を受けつける。質問大歓迎。		
履修要件	特になし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	積極的な質問やレポート発表を期待します。		

科目名	健康心理学	開講時期	2年 後期
担当教員	藤本 昌樹	単位数	2
テーマ	健康心理学の基本を学び、日常生活に生かす。		
授業の概要と目的	健康心理学は、数多くある心理学の一応用分野であり、大変多くの学問領域をまたいだ学際的な分野である。それらの学問領域には、医学・看護学・疫学・公衆衛生学・生理学などが含まれる。本講義では、そうした健康心理学の基本的な知識の理解と、人の健康を健康心理学で、いかに捉えていけるのかを理解していく。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 健康心理学とは何だろう 3. 体と心の病の関係 (I) 4. 体と心の病の関係 (II) 5. 体と心の病の関係 (III) 6. 健康心理学の研究法 7. 健康心理学と疫学 (I) 8. 健康心理学と疫学 (II) 9. 自己効力感と健康心理学 10. 健康行動のモデル 11. ストレス概論 (I) 12. ストレス概論 (II) 13. 健康心理学の応用研究 (I) 14. 健康心理学の応用研究 (II) 15. まとめ 		
テキスト	野口京子著 健康心理学がとってもよくわかる本 (東京書店)		
参考文献			
成績評価の基準・方法	成績評価は小試験の結果を中心に行う。 小試験 80% , 提出物・出席 20%		
質問・相談の受付方法	講義では、質問を受け付けるので積極的に質問をし、内容の理解に努めてほしい。その他、随時質問は受け付ける。メールでも可。 Fujimoto@suw.ac.jp		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	<p>基本書としてテキストを使用するが、あくまで資料として利用し、全ての内容には触れないので理解すること。</p> <p>*出席の確認にメールを使用する。出席の確認の方法については、再度、オリエンテーション時に説明する。概要は下記の通り</p> <p>メールのタイトルに「福祉心理学 学籍番号 氏名」</p> <p>本文欄に「 月 日 、当日のキーワード」</p> <p>これを fujimoto.suw@gmail.com 宛に送付。</p>		

科目名	生理心理学	開講時期	3年 後期
担当教員	ロノ町 康夫	単位数	2
テーマ	こころの働きの基礎にある脳活動の理解		
授業の概要と目的	こころの働きの基礎になるのは、脳における生理的な活動である。脳の活動については、まだ十分に判明していないが、心理的な理論の理解と検証に役立つことが多い。この講義では、基礎的な神経伝達や脳の構造に関する大脳生理学の知識から始め、日常生活に関連が深い言語の理解と障害、記憶、睡眠、生活リズム、感情、ストレスなどの心理現象を中心的なトピックスとしてとりあげ、それに関連する脳の働きについて理解を養う。また、感情障害や統合失調症が脳内の生理的異常に伴い生じることを理解する。		
授業計画	<p>各講義における中心的テーマと主要キーワードを以下に示めす。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 脳における左右差：人は二つの心を持つ？ 左右の脳半球の異なる機能。 2-3. 脳における言葉の中枢：ウエルニッケの中枢とブローカの中枢、言語障害事例、分離脳（脳を左右分離するとどうなるか？）、文化により脳の違いが生じる。 4. 神経細胞の働き：ニューロンの構造、活動電位、シナプス、神経伝達物質など 5-6. 脳の構造と機能分化：人の脳の特異性、自律神経、脳の解剖学、脳の機能局在 7. 脳における記憶の中枢：海馬などの記憶中枢、記憶障害事例、加齢の影響 8. 脳の働きに影響する生化学物質：薬で頭をよくできるか？ 9-10. 脳の働きと生活リズム：睡眠、サーカディアン・リズム、時差、脳波 11. 感情を支配する脳：感情の中枢、快中枢、満腹中枢、摂食中枢、怒りの中枢 12. ストレスと性格：タイプAの性格？ セリエの汎適応症候群、ストレス訓練法 13. 遺伝と環境による脳の変化：遺伝的影響と環境的影響の分離手法（双生児法、選択交配）、環境の影響、脳の男女差、 14. 脳への薬害：アルコール、タバコ、麻薬はどのような影響を脳に与えるか？ 15. 精神障害における脳内変化（統合失調症、認知症、感情障害など） 		
テキスト	随時資料を配布する。		
参考文献	<p>①利島保（編） 脳神経心理学 朝倉書店</p> <p>②古川、川崎、福田著、「脳と心の不思議な関係—生理心理学入門」、川島書店</p>		
成績評価の基準・方法	ミニテスト：50%、レポート：30%、意見発表と授業態度：20%		
質問・相談の受付方法	研究室等で随時、質問、相談を受けつける。		
履修要件	特になし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	積極的な質問や発表を期待します。		

科目名	福祉心理学	開講時期	2年 前期
担当教員	藤本 昌樹	単位数	2
テーマ	福祉と心理学の接点について学び、福祉心理学に対する考えを深める。		
授業の概要と目的	福祉心理学とは、学際的領域の学問であり、発展途上の学問である。その福祉心理学を理解し、将来にわたり、福祉心理学を発展させていくための基礎的知識を確認すると共に、自ら学ぶ力をつけていく。		
授業計画	01. オリエンテーション 02. 福祉心理学とはなにか？ 03. 福祉心理学の未来について考える 04. 障害のとらえ方 05. 対人援助を行う上の基本事項 06. 福祉心理学的援助を考える：心理学の基礎知識1 07. 福祉心理学的援助を考える：心理学の基礎知識2 08. 福祉心理学的援助を考える：心理学の基礎知識3 09. 災害被害者の福祉と心理について考える 10. 精神障害の福祉と心理 1 11. 精神障害の福祉と心理 2 12. 子どもの福祉と心理 13. 子どもの発達のみずきへの援助 14. 高齢者の福祉と心理：認知症を中心に 15. まとめ		
テキスト	十島雍蔵 編 『福祉心理臨床学』 ナカニシヤ出版 2004年		
参考文献			
成績評価の基準・方法	小テストによる評価 85% 出席・授業態度 15%		
質問・相談の受付方法	授業中、授業終了後など随時受け付ける。メールでも可。 Fujimoto@suw.ac.jp		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	基本書としてテキストを使用するが、あくまで資料として利用し、全ての内容には触れないので理解すること。 *出席の確認にメールを使用する。出席の確認の方法については、再度、オリエンテーション時に説明する。概要は下記の通り メールのタイトルに「福祉心理学 学籍番号 氏名」 本文欄に「 月 日 、当日のキーワード」 これを fujimoto.suw@gmail.com 宛に送付。		

科目名	障害児者心理学	開講時期	2年 後期
担当教員	吉野 大輔	単位数	2
テーマ	障害とは何かについて理解し、その生き方について考える。		
授業の概要と目的	1. 障害とは何かについて理解する。 2. 機能障害の心理学的特徴について理解し、環境との関わり方について学ぶ。 3. 障害と生きるという事を、障害を持つ人の視点と援助法を通して学ぶ。		
授業計画	第1回・・・ 授業ガイダンス、授業の進め方について 第2回・・・ 特殊教育から特別支援教育へ 第3回・・・ 発達早期における障害 第4回・・・ 各機能障害について1（知的障害） 第5回・・・ 各機能障害について2（視覚・聴覚障害） 第6回・・・ 各機能障害について3（肢体不自由・脳性まひ） 第7回・・・ 各機能障害について4（病弱・虚弱・重度、重複障害） 第8回・・・ 各機能障害について5（発達障害・ダウン症） 第9回・・・ 各機能障害について6（発達障害1：広汎性発達障害） 第10回・・・ 各機能障害について7（発達障害2：ADHD） 第11回・・・ 各機能障害について8（発達障害3：学習障害） 第12回・・・ 各機能障害について9（精神障害1） 第13回・・・ 各機能障害について10（精神障害2） 第14回・・・ 「障害の受容」の基本的考え方 第15回・・・ 心理学的援助の基本的方法、総括		
テキスト	よくわかる認知発達とその支援（子安増生編 ミネルヴァ書房）		
参考文献	講義中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	最終テスト（50%）、確認テスト（30%）、出席（20%） 出席が必要日数ないものは試験を受けられないので注意する事。詳細は初回のガイダンスで直接指示する。		
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室で受け付ける。また講義内で指示する。		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	児童福祉心理学	開講時期	3年 前期
担当教員	房 間 貞	単 位 数	2
テーマ	児童福祉における心理臨床現場での臨床心理学的アプローチ		
授業の概要と目的	<p>児童相談や児童福祉施設等の様々な臨床現場での臨床心理学の理論とアプローチの技法を学ぶ。</p> <p>目的として、児童の発達と親子関係を軸として、乳児期から思春期までの心理臨床を学ぶ。特に児童福祉現場で出会う様々な問題事例を提示し、被虐待・不登校・非行・発達障害等の具体的事例への臨床心理学的アプローチの方法の理解を深める。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 自己理解・家族理解のために「家系図」「樹木画」(バウムテスト)を描く 2 自己理解・家族理解のために「動的家族画」を描く 3 児童福祉の現場として「児童相談所」の概要と機能を知る 4 児童福祉の現場として「児童福祉施設」「里親」の概要と機能を知る 5 心理的援助技術の基礎知識とその活用 6 面接相談の方法(生育歴の聴取・家族関係の調査等)と記録の取り方 7 心理臨床現場での心理アセスメント 8 児童相談での心理治療の方法 9 問題事例の検討(1) 被虐待 10 問題事例の検討(2) 非行 11 問題事例の検討(3) 不登校 12 問題事例の検討(4) 発達障害 13 問題事例の検討(5) 危機介入時の心のケア 14 児童福祉心理学の重要な視点 15 授業の総括 		
テキスト	<p>「心とかかわる臨床心理」－基礎・実際・方法－ 著者 川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 出版社 ナカニシヤ出版</p>		
参考文献	参考文献は講義中に適宜紹介し、また、参考資料を配布する。		
成績評価の基準・方法	頻回に実施する小レポート(20%)と学期末の筆記試験(80%)で評価する。		
質問・相談の受付方法	講義関連の質問は、小レポートに書けば次回の授業の中で全体に回答する。 個人的な質問・相談は、講義終了後に教室あるいは講師控え室で受ける。		
履修要件	特に設けない		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	講義の中で、事例と家族画の検討を頻繁に行うが、守秘義務の理解と家族画の回収に協力を願いたい。		

科目名	精神保健学 A	開講時期	1年前期
担当教員	西村 勉	単位数	2
テーマ	人のこころを理解するために必要なメンタルヘルスの基礎について学ぶ (前)		
授業の概要と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス・サイエンス (精神保健学) についての基礎知識を理解する。 ・ライフサイクルにおけるメンタルヘルスを理解する。 ・メンタルヘルスにおける個別課題への取り組みを理解する。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1: オリエンテーション、精神保健についての基礎知識、精神保健の概要意義課題 2: 精神保健福祉士国家資格取得のすすめ (精神保健福祉士実習委員紹介) 3: ライフサイクルにおける精神保健、胎児期および乳幼児期における精神保健 4: 学童期における精神保健 5: 思春期における精神保健 6: 青年期における精神保健 7: 成人期における精神保健 8: 老年期における精神保健 9: 精神保健における個別課題への取り組み、精神障害者対策 10: 認知症対策 11: アルコール関連問題対策と薬物乱用防止対策 12: 思春期の精神保健対策 13: 地域精神保健対策 14: ターミナルケアと精神保健 15: まとめ 		
テキスト	精神保健学 日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2835円 2009		
参考文献	講義中に適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	成績評価は試験の結果を中心に行う。		
質問・相談の受付方法	講義終了後教室で受付します。		
履修要件	理解を助けるために紹介した、実際の患者さんや利用者さんの情報について、他に漏洩しないことを守れなければなりません。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	講義の中で、事例等の説明を行いますので、守秘義務の理解を願いたい。		

科目名	精神保健学 B	開講時期	1年後期
担当教員	西村 勉	単位数	2
テーマ	人のこころを理解するために必要なメンタルヘルスやストレスについて学ぶ(後)		
授業の概要と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス促進のための活動の実際を知ろう。 ・メンタルヘルス・マネージメントの力をつけよう。 ・ストレスに強くなる方法論を知り、自分や家族友人同僚の力になろう。 ・地域精神保健や地域保健の施策、関連する法規や施策を理解してみよう。 ・外国のメンタルヘルスへの取り組みを知ろう。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：精神保健活動の実際、家庭における精神保健 2：学校における精神保健 3：職場における精神保健 4：従業員のストレス・マネージメントとメンタルヘルスケアの方針と計画 5：精神保健マネージメントのためのストレスに関する基礎知識 6：精神保健マネージメントにおけるセルフケアの重要性とストレスへの気づき方 7：精神保健マネージメントにおけるストレスへの対処とストレス軽減の方法 8：諸外国における職場の精神保健 9：地域における精神保健 10：地域精神保健施策の概要 11：地域保健施策の概要 12：関連法規と施策 13：アメリカの地域精神保健、イギリスの地域精神保健 14：フランスの地域精神保健 15：まとめ 		
テキスト	① 本年度前期開講した精神保健学 A の教科書を引き続き使用します。		
参考文献	講義中に適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	成績評価は試験の結果を中心に行う。		
質問・相談の受付方法	講義終了後教室で受付します。		
履修要件	前期精神保健 A の履修歴があれば単位取得していなくても履修可です。 加えて前期の履修要件は同様に必要です。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】前期に精神保健 A の履修歴があり、守秘義務が守れること。 聴講生【可】前期に精神保健 A を聴講歴があり、守秘義務が守れること。		
その他	講義の中で、事例等の説明を行いますので、守秘義務の理解を願いたい。		

科目名	精神医学A	開講時期	2年前期
担当教員	寺田 修	単位数	2
テーマ	人とよりよく関わり、人をよりよく理解するために必要な精神医学を学ぶ（前）		
授業の概要と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス関連事業や医療・福祉・教育の現場で活躍する専門援助職のために必要な精神医学を理解し、業務や支援に生かせることを目的としています。 ・代表的な精神障害の理解のために視聴覚教材やPVで症例を提示します。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：オリエンテーション、精神医学、精神医療の歴史と現状 2：脳及び神経の生理・解剖 3：精神医学の概念・精神障害の成因と分類 4：診断法：手順と方法、症状と状態像 5：診断法：心理検査と身体的検査 6：代表的精神障害：症状性・器質性精神障害：認知症など 7：精神作用物質使用による精神および行動の障害：アルコール、覚醒剤大麻など 8：統合失調症 9：統合失調型及び妄想性障害 10：気分障害：うつ病、躁病 11：特殊な気分障害 12：神経症性障害：不安、恐怖、強迫、転換、解離など 13：ストレス関連障害：PTSD、適応障害、心身症 14：生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群：摂食、睡眠障害 15：まとめ 		
テキスト	精神医学 日本精神保健福祉士養成校協会編 中央法規 2835円 2009.2		
参考文献	講義中に適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	成績評価は試験の結果を中心に行う。		
質問・相談の受付方法	講義終了後教室で受付します。		
履修要件	精神医学は医学の専門分野の1つであるため、「人体の構造と機能および疾病」が並行履修中または前年度までに単位取得済みであることが前提です。 症例を説明に使用しますので、守秘義務の守れる学生に限ります。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】「人体の構造と機能および疾病」が履修済みまたは履修中 聴講生【可】「人体の構造と機能および疾病」が聴講済みまたは聴講中		
その他	講義の中で、事例等の説明を行いますので、守秘義務の理解を願いたい。		

科目名	精神医学 B	開講時期	2年後期
担当教員	寺田 修	単位数	2
テーマ	人とよりよく関わり、人をよりよく理解するために必要な精神医学を学ぶ（後）		
授業の概要と目的	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタルヘルス関連事業や医療・福祉・教育の現場で活躍する専門援助職のために必要な精神医学を理解し、業務や支援に生かせることを目的とします。 ・代表的な精神障害の理解のために視聴覚教材などで症例を提示します。 		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1：成人のパーソナリティ及び行動の障害 2：精神遅滞（知的障害） 3：心理的発達障害 4：小児期青年期行動情緒障害：ADHD、行為障害、チックなど 5：神経疾患：てんかんなど 6：治療法：身体的療法 7：精神療法：精神分析・交流分析 8：精神療法：箱庭・夢分析 9：精神療法：来談者中心療法 10：精神療法：認知行動療法 11：環境・社会療法 12：精神科リハビリテーション 13：病院・救急・地域精神医療 14：司法精神医学 15：まとめ 		
テキスト	前期の精神医学 A で使用した教科書を引き続き使用します。		
参考文献	講義中に適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	成績評価は試験の結果を中心に行う。		
質問・相談の受付方法	講義終了後教室で受付します。		
履修要件	<p>精神医学は医学の専門分野の 1 つであるため、前提知識として医学一般を理解しているすなわち「人体の構造と機能および疾病」が並行履修中または前年度までに履修済みであることが前提です。</p> <p>精神医学 B は精神医学 A を前提に授業を展開します。</p> <p>前期精神医学 A の単位取得に関わらず履修歴さえあれば、後期の精神医学 B の履修は認めます。</p> <p>症例を説明に使用しますので、守秘義務の守れる学生に限ります。</p>		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【可】「人体の構造と機能および疾病」が履修済みまたは履修中</p> <p>聴講生【可】「人体の構造と機能および疾病」が聴講済みまたは聴講中</p>		
その他	講義の中で、事例等の説明を行いますので、守秘義務の理解を願いたい。		

科目名	精神科リハビリテーション学A	開講時期	3年前期
担当教員	吉永 洋子	単位数	2
テーマ	精神保健福祉士の重要な業務である精神科リハビリテーション、すなわち全人的復権について、学習する。		
授業の概要と目的	(目的)精神科リハビリテーション学の理念及び方法を理解し、精神保健福祉士の価値を修得する。 (概要)精神科リハビリテーション学の概念・構成・プロセスなどの理念及び方法を学習する。テキストは第1章から第4章を学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション リハビリテーションの概念① 第1章第1節・第2節 2 リハビリテーションの概念② 第1章第3節 3 リハビリテーションの概念③ 第1章第4節・第5節 4 精神科リハビリテーションの構成① 第2章第1節・第2節 5 精神科リハビリテーションの構成② 第2章第3節 6 精神科リハビリテーションの構成③ 第2章第4節 7 精神科リハビリテーションの構成④ 第2章第5節③ 8 精神科リハビリテーションのプロセス① 第3章第1節 9 精神科リハビリテーションのプロセス② 第3章第2節 10 精神科リハビリテーションのプロセス③ 第3章第3節 11 医療機関におけるリハビリテーション① 第4章第1節～第3節 12 医療機関におけるリハビリテーション② 第4章第4節・第5節 13 医療機関におけるリハビリテーション③ 第4章第6節 14 医療機関におけるリハビリテーション④ 第4章第7節・第8節 15 医療機関におけるリハビリテーション⑤ 第4章第9節・第10節 		
テキスト	・日本精神保健福祉士養成校協会編集『精神科リハビリテーション学』(中央法規)		
参考文献	講義中に適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	毎回の小テストを5点満点として評価する 総括試験	(15回)	75点 25点
質問・相談の受付方法	質問については、オフィスアワーなどを積極的に利用してください。 相談については、予約を優先するため、yosinaga@suw.ac.jp へ連絡してください。		
履修要件	特に設けない		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	「リハビリテーション」というと、理学療法士が行うものを想像する方が多いのではないのでしょうか。精神科におけるリハビリテーションとは何かを学習していきましょう。授業においての積極的な発言や質問を望みます。また、社会福祉小六法及び辞書を携帯し、わからないことは調べる習慣をつけてください。		

科目名	精神科リハビリテーション学B	開講時期	3年後期
担当教員	吉永 洋子	単位数	2
テーマ	後期では、教科書にある事例や実際の数値を中心に、精神科リハビリテーションのあり方や実際に学習する。		
授業の概要と目的	(目的)精神保健福祉士の視点においてリハビリテーションがどのように行われているのかという精神科リハビリテーション学の現状や内容を理解する。 (概要)精神科リハビリテーション学の現状や内容を、テキストの事例などを中心に学習する。テキストは第5章から第7章を学ぶ。		
授業計画	1 医療機関におけるリハビリテーション① 第5章第1節①(事例1～3) 2 医療機関におけるリハビリテーション② 第5章第1節②(事例4・5) 3 医療機関におけるリハビリテーション③ 第5章第1節③(事例6・7) 4 医療機関におけるリハビリテーション④ 第5章第1節④(事例8・9) 5 社会的リハビリテーション 第5章第2節 6 地域リハビリテーション① 第6章第1節①地域ネットワーク 7 地域リハビリテーション② 第6章第1節②ケアマネジメント 8 地域リハビリテーション③ 第6章第1節③地域生活支援事業など訪問援助 9 地域リハビリテーション④ 第6章第1節④家族会・セルフヘルプグループ 10 地域リハビリテーション⑤ 第6章第1節⑤ボランティア 11 職業リハビリテーション① 第6章第2節①職業リハビリテーション施策 12 職業リハビリテーション② 第6章第2節②職業リハビリテーションの実際 13 精神保健施策の展開① 第7章第1節・第2節日本の現状と施策 14 精神保健施策の展開② 第7章第3節 外国の現状と課題 15 精神保健施策の展開③ 第7章第4節 精神医療・精神保健など		
テキスト	・日本精神保健福祉士養成校協会編集『精神科リハビリテーション学』(中央法規)		
参考文献	講義中に適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	毎回の小テストを5点満点として評価する 総括試験	(15回)	75点 25点
質問・相談の受付方法	質問については、オフィスアワーなどを積極的に利用してください。 相談については、予約を優先するため、yosinaga@suw.ac.jpへ連絡してください。		
履修要件	「精神科リハビリテーション学A」の単位を修得していること		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	前期の「精神科リハビリテーション学A」に引き続き、具体的な実践場面を踏まえて、精神科におけるリハビリテーションを学習していきましょう。授業における積極的な発言や質問を望みます。また、社会福祉小六法及び辞書を携帯し、わからないことは調べる習慣をつけてください。		

科目名	精神保健福祉論A	開講時期	2年 前期
担当教員	長坂和則	単位数	2
テーマ	精神障がい者の人権と取り巻く生活課題及び福祉のニーズを理解する		
授業の概要と目的	精神障がい者がおかれている状況を踏まえつつ、精神障がい者の人権について歴史的背景から現在に至るまでの処遇や治療を理解する。また、わが国における精神障がい者に対する法律の変遷と法改正におけるポイントを重点に学習を進めていく。精神疾患や障がいあるいは処遇に関する歴史的背景の理解を深めるために VTR・DVD を教材として使用する。		
授業計画	第1回 精神障がい者といわれる人々とは（疾病と障害を持つ人々への理解） 第2回 障害者福祉の理念とは（ノーマライゼーション） 第3回 リハビリテーションの提議とリハビリテーションの体系 第4回 精神障がい者とハンセン病の処遇と相違点 第5回 障害の概念とは 第6回 精神障がい者の概念（統合失調症等の VTR を使用） 第7回 精神障がい者と家族の状況（家族に関する VTR を使用） 第8回 精神障がい者福祉の歴史（精神疾患に関する VTR を使用） 第9回 収容主義から私宅監置について 第10回 精神病患者監護法から精神病院法への変遷 第11回 精神衛生法から精神保健法への変遷 第12回 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の改正の要点 第13回 精神障がい者の人権と権利擁護 第14回 他の精神疾患に関する理解 第15回 全般のまとめ（復習及び国家試験のキーワード）		
テキスト	改訂第3版増補「精神保健福祉論」へるす出版		
参考文献	2011～2012年精神保健福祉士国家試験専門5教科キーワード へるす出版 2011 精神保健福祉士国家試験対策用語辞典 弘文堂 2011 精神保健福祉士国家試験対策選択別問題集 弘文堂		
成績評価の基準・方法	精神保健福祉士国家試験と同様の形式で筆記試験を行なう		
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間において対応する。研究室は 104		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	精神保健福祉論B	開講時期	2年 後期
担当教員	長坂和則	単位数	2
テーマ	精神保健福祉士としての専門的技術の理論及び支援方法を習得する		
授業の概要と目的	精神障がい者がおかれている状況を踏まえつつ、精神障がい者の人権について歴史的背景から現在に至るまでの処遇や治療を理解する。また、わが国における精神障がい者に対する法律の変遷と法改正におけるポイントを重点に学習を進めていく。精神疾患や障がいあるいは処遇に関する歴史的背景の理解を深めるために VTR・DVD を教材として使用する。		
授業計画	第1回 精神保健福祉士の歴史と意義 第2回 支援の対象者となる人々の理解 第3回 疾患と支援を理解する①（統合失調症に関する VTR を使用） 第4回 疾患と支援を理解する②（強迫神経症に関する VTR を使用） 第5回 疾患と支援を理解する③（精神科医療全般に関する VTR を使用） 第6回 疾患と支援を理解する④（社会的入院等に関する VTR を使用） 第7回 疾患と支援を理解する⑤（精神障がい者施設に関する VTR を使用） 第8回 精神障がい者にとっての社会的障壁（バリア）とは 第9回 ノーマライゼーションの視点と精神障がい者 第10回 当事者運動とは 第11回 AA NA GA DARC での当事者活動とは 第12回 精神保健福祉法の内容 第13回 精神保健福祉士法の意義と内容 第14回 相談援助業務について 第15回 全般のまとめ（復習及び国家試験のキーワード）		
テキスト	改訂第3版増補「精神保健福祉論」へるす出版		
参考文献	2011～2012年精神保健福祉士国家試験専門5教科キーワード へるす出版 2011 精神保健福祉士国家試験対策用語辞典 弘文堂 2011 精神保健福祉士国家試験対策選択別問題集 弘文堂		
成績評価の基準・方法	精神保健福祉士国家試験と同様の形式で筆記試験を行なう		
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間において対応する。研究室は 104		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生 【不可】 聴講生 【不可】		
その他			

科目名	精神保健福祉論C	開講時期	3年 前期
担当教員	山城 厚生	単位数	2
テーマ	精神保健福祉の理念及び精神障害者支援に関する施策・援助技術等全般的に学ぶ。		
授業の概要と目的	<p>(概要)</p> <p>精神保健福祉法をはじめ関係する各法律の内容や精神保健福祉施策の概要を学び、この分野のサービス体系の基礎について理解する。</p> <p>(目的)</p> <p>精神保健福祉士養成における中心的科目であり、各専門科目の基礎として精神保健福祉の体系を理解する。(精神保健福祉援助技術関係の各専門科目へつなげる。)</p>		
授業計画	<p>精神保健福祉論Cは、同ABに続くものである。</p> <p>第6章 精神保健福祉法、精神保健福祉士法等精神障害者に関する法律 (1～5回)</p> <p>1 精神保健福祉法、精神保健福祉士法の意義と内容</p> <p>2 関連法 (障害者自立支援法・他) について</p> <p>第7章 精神保健福祉施策の大きな変化 (6～11回)</p> <p>1 精神保健福祉施策の概要</p> <p>2 精神保健福祉に関する行政組織</p> <p>3 精神保健福祉に関わる公費負担制度</p> <p>4 精神保健福祉施策の課題</p> <p>5 社会復帰施策 (精神障害者のリハビリテーション)</p> <p>6 地域生活支援</p> <p>7 精神障害者の保健福祉に関わる専門職との連携</p> <p>第8章 精神保健福祉の関連施策 (12～15回)</p> <p>1 医療保険制度 ・介護保険制度</p> <p>2 雇用就労</p> <p>3 所得保障 ・経済負担の軽減</p> <p>4 生活環境の改善</p>		
テキスト	精神保健福祉養成セミナー 第4巻 増補新版『精神保健福祉論』 改訂第3版 へるす出版		
参考文献	・随時 紹介する。		
成績評価の基準・方法	・期間中に小中テスト実施 (小テスト40% 中テスト50%) ・出席及び取り組み態度 (5%) ・レポート (5%)		
質問・相談の受付方法	・講義終了後及び空き時間にて対応 (研究室 研究棟 302号室)		
履修要件	・原則として『精神保健福祉論AB』を履修済みであること。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	・精神保健福祉士国家試験の指定科目		

科目名	精神保健福祉援助技術総論A	開講時期	2年 前期
担当教員	山城 厚生	単位数	2
テーマ	精神保健福祉に関する援助技術について全般的に学ぶ。		
授業の概要と目的	<p>(概要)</p> <p>精神障害者に対する社会福祉サービスの現状を知るとともに、精神保健福祉援助のあり方を学ぶ。またその専門的援助技術（直接・間接援助技術施、他）の体系について広く学ぶ。</p> <p>(目的)</p> <p>精神保健福祉士に関する専門的な援助技術の概要を学習し、次のB及び次年度の『精神保健福祉援助技術各論』及び演習の基礎を培う。</p>		
授業計画	<p>第1章 精神障害者に対する社会福祉サービスと援助活動</p> <p>1 社会福祉援助の適用と対象 (1～3回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉援助の原型（福祉の心）と発展 ・ 社会福祉援助の対象、適用の場 <p>2 社会福祉サービスと専門的援助方法 (4～6回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神保健福祉と社会福祉サービスとその実際 <p>第2章 精神障害者に対する社会福祉援助活動の目的・価値・原則及び諸過程と共通課題</p> <p>1 社会福祉援助活動の目的と価値 (7～9回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神保健福祉士の専門的技術 ・ 社会福祉援助活動の目的と価値 ・ 精神保健福祉士が示す目的と価値及び倫理 <p>2 社会福祉援助活動の原則 (10～12回)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 精神保健福祉士の価値とソーシャルワークの原則 <p>3 社会福祉援助活動の方法と過程 (13回)</p> <p>4 社会福祉援助活動の共通課題 (14～15回)</p>		
テキスト	精神保健福祉養成セミナー 第5巻 増補『精神保健福祉援助技術総論』 改訂第3版 へるす出版		
参考文献	・ 随意時 紹介する。		
成績評価の基準・方法	・ 期間中に小中テスト実施（小テスト40% 中テスト50%） ・ 出席及び取り組み態度（5%） ・ レポート（5%）		
質問・相談の受付方法	・ 講義終了後及び空き時間にて対応（研究室 研究棟 302号室）		
履修要件	・ 原則として『精神保健福祉論AB』を履修済みであること。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	・ 精神保健福祉士国家試験の指定科目		

科目名	精神保健福祉援助技術総論B	開講時期	2年 後期
担当教員	山城 厚生	単位数	2
テーマ	精神保健福祉に関する援助技術について全般的に学ぶ。		
授業の概要と目的	<p>(概要)</p> <p>精神保健福祉援助技術総論Aに続き、精神障害者に対する援助技術のあり方を広く学ぶ。またその専門的援助技術（直接・間接援助技術施、他）及び関連する専門的技術についても学ぶ。</p> <p>(目的)</p> <p>精神保健福祉士に関する専門的な援助技術の概要を学習し、次年度の『精神保健福祉援助技術各論』及び演習の基礎を培う。</p>		
授業計画	<p>第3章 専門的援助技術の体系</p> <p>1 直接援助技術の内容と機能 (1～3回)</p> <p>2 間接的援助技術の内容と機能 (4～5回)</p> <p>3 関連専門的援助技術 (6～7回)</p> <p>第4章 精神保健福祉士と専門的援助技術</p> <p>1 チームアプローチと専門的援助技術 (8～9回)</p> <p>2 精神保健福祉士の専門的援助技術 (10回)</p> <p>3 生活支援と専門的援助技術 (11回)</p> <p>4 社会資源と社会復帰施設における専門的援助技術 (12回)</p> <p>5 ライフサイクルに伴う精神保健福祉課題への専門的援助技術 (13回)</p> <p>6 就労支援の専門的援助技術 (14～15回)</p>		
テキスト	精神保健福祉養成セミナー 第5巻 増補『精神保健福祉援助技術総論』 改訂第3版 へるす出版		
参考文献	・随意時 紹介する。		
成績評価の基準・方法	・期間中に小中テスト実施（小テスト40% 中テスト50%） ・出席及び取り組み態度（5%） ・レポート（5%）		
質問・相談の受付方法	・講義終了後及び空き時間にて対応（研究室 研究棟 302号室）		
履修要件	・原則として『精神保健福祉論ABC』を履修済みであること。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	・精神保健福祉士国家試験の指定科目		

科目名	精神保健福祉援助技術各論A	開講時期	3年 前期
担当教員	長坂和則	単位数	2
テーマ	精神保健福祉士としての専門的技術の理論及び支援方法を習得する		
授業の概要 と目的	精神障がい者の人権や疾病及び障がいに配慮した実践の基本的な理解をすると共にケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントについてそれぞれ具体的な事例を取り上げる。 教科書の流れに沿って授業を進めるが、国家資格取得を視野に入れ過去に出題された国家試験のポイントを解説しながら、ソーシャルワーク実践に必要な現場での情報も含めて行なう。理解を深めるためにVTR・DVDを教材として使用する。		
授業計画	第1回 精神科領域で行なわれるソーシャルワークの実際とは 第2回 精神障がい者の病気と障がいについて 第3回 ケースワークの定義（ケースワークの具体例） 第4回 ケースワーク（個別援助技術）とは 第5回 ケースワークの方法 第6回 精神保健福祉士として理解すべき面接の知識 第7回 感情転移・アンビバレンス（両面価値）・抵抗について 第8回 疾病および障害に配慮したケースワーク 第9回 インテークとは 第10回 ケースワークの援助過程について 第11回 面接技術について 具体例 インフォームドコンセントを含む 第12回 ケースワークにおけるスーパービジョン 第13回 グループワークの定義 第14回 グループワーク（集団援助技術）とは 第15回 全般のまとめ（復習及び国家試験のキーワード）		
テキスト	改訂第3版増補「精神保健福祉援助技術各論」へるす出版		
参考文献	2011～2012年精神保健福祉士国家試験専門5教科キーワード へるす出版 2011 精神保健福祉士国家試験対策用語辞典 弘文堂 2011 精神保健福祉士国家試験対策選択別問題集 弘文堂		
成績評価の 基準・方法	精神保健福祉士国家試験と同様の形式で筆記試験を行なう		
質問・相談 の受付方法	講義終了後および空き時間において対応する。研究室は104		
履修要件			
特別学生の 履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	精神保健福祉援助技術各論B	開講時期	3年 後期
担当教員	長坂和則	単位数	2
テーマ	精神保健福祉士としての専門的技術の理論及び支援方法を習得する		
授業の概要と目的	<p>精神障がい者の人権や疾病及び障がいに配慮した実践の基本的な理解をすると共にケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク、ケアマネジメントについてそれぞれ具体的な事例を取り上げる。</p> <p>教科書の流れに沿って授業を進めるが、国家資格取得を視野に入れ過去に出題された国家試験のポイントを解説しながら、ソーシャルワーク実践に必要な現場での情報も含めて行なう。理解を深めるためにVTR・DVDを教材として使用する。</p>		
授業計画	<p>第1回 グループワークの具体例</p> <p>第2回 集団援助における原則と役割</p> <p>第3回 精神科デイケア、SST（社会生活技能訓練）について</p> <p>第4回 SHG（セルフヘルプグループ）AA及び断酒会などの事例</p> <p>第5回 アディクションの講義と具体的な援助の事例</p> <p>第6回 コミュニティワークの歴史と概念</p> <p>第7回 コミュニティワーク（地域援助技術）の実践</p> <p>第8回 コミュニティワークの原則と援助技術</p> <p>第9回 社会資源の活用と開発 コミュニティワークの事例</p> <p>第10回 精神障がい者へのケアマネジメント 原則 意義 留意点</p> <p>第11回 ケアマネジメントのプロセスとチームワーク</p> <p>第12回 精神障がい者支援と関連専門職種との連携</p> <p>第13回 チーム医療における精神保健福祉士の役割と機能及び連携</p> <p>第14回 PTSDに対する援助方法と理解</p> <p>第15回 全般のまとめ（復習及び国家試験のキーワード）</p>		
テキスト	改訂第3版増補「精神保健福祉援助技術各論」へるす出版		
参考文献	<p>2011～2012年精神保健福祉士国家試験専門5教科キーワード へるす出版</p> <p>2011精神保健福祉士国家試験対策用語辞典 弘文堂</p> <p>2011精神保健福祉士国家試験対策選択別問題集 弘文堂</p>		
成績評価の基準・方法	精神保健福祉士国家試験と同様の形式で筆記試験を行なう		
質問・相談の受付方法	講義終了後および空き時間において対応する。研究室は104		
履修要件			
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他			

科目名	精神保健福祉援助演習A	開講時期	3年前期
担当教員	長坂 和則・石光 和雅・吉永 洋子	単位数	2
テーマ	精神保健福祉援助技術の理論が実践につながるよう、実技指導を中心とする演習形態により学習する。		
授業の概要と目的	<p>(目的)精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により習得し、自分自身で考え主体的に行動する態度を養成する。</p> <p>(概要)精神保健福祉援助実習の前段階として、ケースワーク・グループワークを中心とした精神保健福祉士の支援方法を、事例検討及びロールプレイにより身につける。</p>		
授業計画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2～14 事例演習（グループ討議）</p> <p>15 援助技術の要点確認</p>		
テキスト	・ 特にない。		
参考文献	授業において適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	毎回の授業態度及びリアクションペーパーの内容		
質問・相談の受付方法	質問については、メールにて受け付けます。長坂 (nag-kaz-psw@suw.ac.jp)、吉永 (yosinaga@suw.ac.jp) へ連絡してください。相談の場合は、メールにて予約後、長坂研究室(104)、吉永研究室(601)にて実施いたします。吉永は基本的には、福祉創造館5階の福祉実習指導センターにあります。		
履修要件	<p>「精神保健福祉援助技術総論A・B」の単位を修得していること</p> <p>「精神保健福祉援助技術各論A」の単位を履修中かつ修得見込みであること</p>		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	演習は、総論および各論で身につけた技術を、教室内において実施する時間です。そのため、授業においての積極的な発表や質問を望みます。また、社会福祉小六法及び辞書を携帯し、わからないことは調べる習慣をつけてください。		

科目名	精神保健福祉援助演習B	開講時期	3年後期
担当教員	長坂 和則・石光 和雅・吉永 洋子	単位数	2
テーマ	精神保健福祉援助技術の理論が実践につながるよう、実技指導を中心とする演習形態により学習する。		
授業の概要と目的	<p>(目的)精神保健福祉士の専門的援助技術及びリハビリテーション技法について、実技指導を中心とする演習形態により習得し、自分自身で考え主体的に行動する態度を養成する。</p> <p>(概要)精神保健福祉援助実習の前段階として、ケースワーク・グループワークを中心とした精神保健福祉士の支援方法を、事例検討及びロールプレイにより身につける。</p>		
授業計画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2～14 事例演習</p> <p>15 援助技術の要点確認</p>		
テキスト	<p>日本精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編集 『改訂第3版 精神保健福祉援助演習』（へるす出版）</p>		
参考文献	<p>授業において適宜紹介する</p>		
成績評価の基準・方法	<p>毎回の授業態度及びリアクションペーパーの内容</p>		
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワーなどを積極的に利用してください</p>		
履修要件	<p>「精神保健福祉援助技術総論A・B」の単位を修得していること 「精神保健福祉援助技術各論B」の単位を履修中かつ修得見込みであること</p>		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】 聴講生【不可】</p>		
その他	<p>演習は、総論および各論で身につけた技術を、教室内において実施する時間です。そのため、授業における積極的な発表や質問を望みます。また、社会福祉小六法及び辞書を携帯し、わからないことは調べる習慣をつけてください。</p>		

科目名	精神保健福祉援助見学	開講時期	3年前期
担当教員	長坂 和則・石光 和雅・吉永 洋子	単位数	2
テーマ	精神障がい及び精神保健福祉について、精神保健福祉現場における体験を通して総合的に学ぶ。精神保健福祉士を目指す学生は、後期の精神保健福祉実習Ⅰへ進む。		
授業の概要と目的	(目的)精神障がい及び精神保健福祉の現状および精神保健福祉士の業務を、見学やプレ実習、現場の精神保健福祉士の講演等を通じて学ぶ。 (概要)精神保健福祉援助実習の前段階として、精神保健福祉の現状を学ぶ。		
授業計画	<p>基本的には、金曜日3限にて実施する。内容は、教材を通しての講義を実施する。4年生との交流授業があるため、金曜日4限も他の授業は取らないことが好ましい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 精神保健福祉に関する知識の確認① 3・4 4年生との交流会(3・4限) 5 精神保健福祉に関する知識の確認② 6・7 PSWによる講演会(3・4限) 8 見学準備…見学先の概要および目的についてディスカッション 9 見学の実施 日程は調整中である 10 見学後報告会準備 11 見学報告会及び4年生実習前報告会(3・4限) 12 講演会2 メンバーとのふれあいの機会 13・14 プレ実習 15 総括 <p>* 見学及び講演の日程は調整中であり、変更がありうる。</p>		
テキスト	・ 日本精神保健福祉士養成校協会編集『精神保健福祉援助実習』		
参考文献	講義において随時紹介する 精神保健福祉のしおり（授業にて配布）		
成績評価の基準・方法	毎回の授業態度及びリアクションペーパーの内容	(40)	
	提出レポートの内容及び提出時期	(30)	
	見学後報告会のまとめ及びプレゼンテーション	(30)	
質問・相談の受付方法	オフィスアワーなどを積極的に利用してください。		
履修要件	特になし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	授業中や講演会・施設見学会においての積極的な発表や質問を望みます。		

科目名	精神保健福祉援助実習Ⅰ	開講時期	3年後期
担当教員	長坂 和則・石光 和雅・吉永 洋子	単位数	3年次2(4年次4)
テーマ	精神保健福祉現場における実習などの体験を通して、総合的に精神障がい及び精神保健福祉について学ぶ		
授業の概要と目的	<p>(目的) 精神保健福祉援助実習Ⅱ(以下、本実習)に向けた準備をし、あわせて、自己覚知を通し専門職としての倫理を身につける。</p> <p>(概要) 講演等を通じて本実習に向けた準備を実施し、その援助方法を獲得する。</p>		
授業計画	<p>基本的には、3年次は金曜日3限に、4年次は金曜日4限に実施する。内容は、教材を通しての講義を実施する。3・4年生の合同授業があるため、金曜日3限4限ともこの実習の授業があることを想定し、他の授業は履修をしないことが好ましい。</p> <p>1 オリエンテーション 2 実習報告会 3～6 実習事前学習 7・8 講演会 9 実習事前学習 10 心の健康フェア参加 11～15 実習事前学習</p> <p>* 講演等の予定は、講師との調整中であり、日程の変更がありうる</p>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本精神保健福祉士養成校協会編集『精神保健福祉援助実習』(見学で購入済) ・ 本学精神保健福祉実習委員会作成『精神保健福祉援助実習 現場実習の手引き』(配布) 		
参考文献	<p>精神保健福祉のしおり(見学の授業にて配布)</p> <p>講義において随時紹介する。</p>		
成績評価の基準・方法	4年次にて最終評価をする		
質問・相談の受付方法	オフィスアワーなどを積極的に利用してください。		
履修要件	<p>「精神保健福祉援助見学」・「精神保健福祉論C」の単位を修得していること。</p> <p>その前提として「精神保健福祉援助技術各論A・B」・「精神保健福祉援助演習A・B」・「精神科リハビリテーション学A・B」の単位を履修中であること。</p>		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	<p>社会福祉小六法(ミネルヴァ)及び辞書を携帯し、わからないことは調べる習慣をつけてください。</p> <p>また、授業中や講演会などでの積極的な発表や質問を望みます。</p>		

科目名	精神保健福祉援助実習 I	開講時期	4年通年
担当教員	長坂 和則・石光 和雅・吉永 洋子	単位数	4年次4(3年次2)
テーマ	精神保健福祉現場における実習などの体験を通して、総合的に精神障がい及び精神保健福祉について学ぶ		
授業の概要と目的	<p>(目的) 精神障がいを持つ方々の理解を深め、精神保健福祉士が実施する連携を中心に、精神保健福祉援助技術を体系的に学ぶ。自己覚知を通して専門職としての倫理を身につける。</p> <p>(概要) 3年次の実習の振り返りと、4年次の実習の準備及び実習報告会を通して、精神保健福祉現場の現状及び精神保健福祉士としてのあり方を理解する。</p>		
授業計画	<p>基本的には、3年次は金曜日3限に、4年次は金曜日4限に実施する。内容は、教材を通しての講義を実施する。3・4年生の合同授業があるため、金曜日3限4限ともこの実習の授業があることを想定し、他の授業は履修をしないことが好ましい。</p> <p>1 オリエンテーション</p> <p>2 前期実習の自己評価・施設評価などの評価表によるフィードバック</p> <p>3・4 3年生との交流会(3・4限)</p> <p>5 実習事前学習</p> <p>6・7 講演会</p> <p>8～15 実習事前学習</p> <p>16 実習報告会リハーサル</p> <p>17 実習報告会(プレゼンテーション)</p> <p>18～21 実習の振り返り及び国家試験など実践のあり方の検討</p> <p>22・23 講演会</p> <p>24～30 精神保健福祉士としての実践のあり方の検討</p> <p>* 講演等の予定は、講師との調整中であり、日程の変更がありうる</p>		
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> 日本精神保健福祉士養成校協会編集『精神保健福祉援助実習』(3年次購入済) 本学精神保健福祉実習委員会作成『精神保健福祉援助実習 現場実習の手引き』(配布) 		
参考文献	<p>精神保健福祉のしおり(授業にて配布)</p> <p>講義において随時紹介する。</p>		
成績評価の基準・方法	<p>① 実習期間の評価 (50)</p> <p>② レポートその他の提出物の評価 (50)</p>		
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワーなどを積極的に利用してください。</p>		
履修要件	<p>「精神保健福祉援助見学」・「精神保健福祉論 C」の単位を修得していること。</p> <p>3年後期に「精神保健福祉援助実習 I」を履修していること。</p>		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	<p>授業中や講演会などでの積極的な発表や質問を望みます。</p>		

科目名	精神保健福祉援助実習Ⅱ	開講時期	3年後期～4年通年
担当教員	長坂 和則・石光 和雅・吉永 洋子	単位数	6単位
テーマ	精神保健福祉現場における実習などの体験を通して、総合的に精神障がい及び精神保健福祉について学ぶ		
授業の概要と目的	<p>(目的) 精神障がいを持つ方々の理解を深め、精神保健福祉士が実施する連携を中心に、精神保健福祉援助技術を体系的に学ぶ。自己覚知を通して専門職としての倫理を身につける。</p> <p>(概要) 概要自体は各実習生の計画および施設との調整による そのポイントとしては、以下のものがあげられる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学内で学習した知識および技術についての再認識 ・ 精神保健福祉実践現場を知る ・ 対象者について臨床的に学ぶ ・ 専門職を目指すものとしての自己覚知を図る 		
授業計画	<p>原則の実習期間</p> <p>平成24年2月20日～3月6日 90時間以上</p> <p>平成23年8月21日～9月5日 90時間以上</p> <p>原則として、医療機関および社会復帰施設の2箇所において実施する。 ただし、上記の原則は、施設との関係により変動がある</p>		
テキスト	<p>日本精神保健福祉士養成校協会編集『精神保健福祉援助実習』(3年次購入済)</p> <p>本学精神保健福祉実習委員会作成『精神保健福祉援助実習 現場実習の手引き』(配布)</p>		
参考文献	その他、講義にて適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	<p>以下の配分で評価する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実習施設の評価(50) 前期25・後期25 ・ 巡回時の評価(20) ・ 実習報告書の内容および提出状況(20) ・ 実習報告会の発表および内容(10) 		
質問・相談の受付方法	オフィスアワーなどを積極的に利用してください。		
履修要件	精神保健福祉援助実習Ⅰを履修していること。		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	精神保健福祉援助実習Ⅰを経て、いよいよ実習に入ります。実習指導者は、「後輩を育てる」つもりで、社会人としてのマナーを身につけた人間としての実習生を受け入れます。積極的に課題に取り組む姿勢を期待しています。		

